

## 5 行列式

正方行列  $A$  に対してその行列式  $|A|$  を定義するのがこの節の目標。

### 5.1 連立一次方程式と行列式 ( $2 \times 2$ の場合)

次の連立方程式を考えよう。

$$\begin{cases} a_{11}x + a_{12}y = c_1 \\ a_{21}x + a_{22}y = c_2 \end{cases} \quad (1)$$

これを解くのに、(1) の第 1 式に  $a_{22}$  をかけたものから (1) の第 2 式に  $a_{12}$  をかけたものを引いて、

$$(a_{11}a_{22} - a_{12}a_{21})x = c_1a_{22} - c_2a_{12} \quad (2)$$

また、(1) の第 2 式に  $a_{11}$  をかけたものから第 1 式に  $a_{21}$  をかけたものを引くと、

$$(a_{11}a_{22} - a_{12}a_{21})y = c_2a_{11} - c_1a_{21} \quad (3)$$

したがって、 $(a_{11}a_{22} - a_{21}a_{12}) \neq 0$  ならば方程式 (1) は解ける。

(1) を眺め直してみる。行列とベクトルを使ってこれを一気に書くと、

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \end{pmatrix}$$

となる。そこで、天下りではあるが、行列

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix}$$

に対して、

$$|A| = a_{11}a_{22} - a_{21}a_{12}$$

と書く事にする。 $|A|$  は  $\det A$  と書く流儀もあり、行列  $A$  の行列式 (determinant) と呼ばれる。

(2) を行列式を使って表わしてみると

$$\begin{vmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{vmatrix} x = \begin{vmatrix} c_1 & a_{12} \\ c_2 & a_{22} \end{vmatrix}, \text{したがって } x = \frac{\begin{vmatrix} c_1 & a_{12} \\ c_2 & a_{22} \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{vmatrix}}$$

同じ様に (3) を行列式を使って表してみると

$$\begin{vmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{vmatrix} y = \begin{vmatrix} a_{11} & c_1 \\ a_{21} & c_2 \end{vmatrix}, \text{したがって } y = \frac{\begin{vmatrix} a_{11} & c_1 \\ a_{21} & c_2 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{vmatrix}}$$

### 5.2 行列式の一般の定義

3 次の正方行列の行列式を定義しよう。

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix}$$

に対して  $|A|$  は次のように定義する。

$$|A| = a_{11} \begin{vmatrix} a_{22} & a_{23} \\ a_{32} & a_{33} \end{vmatrix} - a_{21} \begin{vmatrix} a_{12} & a_{13} \\ a_{32} & a_{33} \end{vmatrix} + a_{31} \begin{vmatrix} a_{12} & a_{13} \\ a_{22} & a_{23} \end{vmatrix} \quad (4)$$

余因子

上の式で、 $a_{11}$  にかかっているのは、 $A$  の第 1 行と第 1 列を取り除いた行列の行列式。 $a_{21}$  にかかっているのは、 $A$  の第 2 行と第 1 列を取り除いた行列の行列式で、最後の  $a_{31}$  にかかっているのは、 $A$  の第 3 行と第 1 列を取り除いた行列の行列式。だから、 $\overline{A_{ij}}$  を  $A$  の第  $i$  行と第  $j$  列を取り除いた行列とすると、(4) は

$$|A| = a_{11}\overline{A_{11}} - a_{21}\overline{A_{21}} + a_{31}\overline{A_{31}}$$

となる。似たような量を考えよう。すると不思議な事に

$$\begin{aligned} a_{12}\overline{A_{12}} - a_{22}\overline{A_{22}} + a_{32}\overline{A_{32}} &= -|A| \\ a_{13}\overline{A_{13}} - a_{23}\overline{A_{23}} + a_{33}\overline{A_{33}} &= |A| \end{aligned}$$

となっている。列の代わりに行を使っても似たような事が成り立つ

$$\begin{aligned} a_{11}\overline{A_{11}} - a_{12}\overline{A_{12}} + a_{13}\overline{A_{13}} &= |A| \\ a_{21}\overline{A_{21}} - a_{22}\overline{A_{22}} + a_{23}\overline{A_{23}} &= -|A| \\ a_{31}\overline{A_{31}} - a_{32}\overline{A_{32}} + a_{33}\overline{A_{33}} &= |A| \end{aligned}$$

上の式は次のようにまとめられる。3 次の正方行列  $A$  について、 $i = 1, 2, 3, j = 1, 2, 3$  のどれについても次の式が成り立つ。

$$\begin{aligned} |A| &= (-1)^{i+1}a_{i1}|\overline{A_{i1}}| + (-1)^{i+2}a_{i2}|\overline{A_{i2}}| + (-1)^{i+3}a_{i3}|\overline{A_{i3}}| \\ &= (-1)^{1+j}a_{1j}|\overline{A_{1j}}| + (-1)^{2+j}a_{2j}|\overline{A_{2j}}| + (-1)^{3+j}a_{3j}|\overline{A_{3j}}| \end{aligned}$$

これを参考にして、一般の  $n$  次の正方行列  $A$  に対して、その行列式  $|A|$  を

$$|A| = a_{11}|\overline{A_{11}}| - a_{21}|\overline{A_{21}}| + \dots + (-1)^{n+1}a_{n1}|\overline{A_{n1}}| \quad (5)$$

と定義する。 $a_{ij}$  に対して  $(-1)^{i+j}|\overline{A_{ij}}|$  を  $a_{ij}$  の余因子という。

例 5.1 定義にしたがって行列式を計算してみよう。

$$\begin{aligned} \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \end{vmatrix} &= (-1)^{1+1} \cdot \begin{vmatrix} -1 & 1 \\ 1 & -1 \end{vmatrix} + (-1)^{1+2} \cdot 1 \cdot \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{vmatrix} \\ &\quad + (-1)^{1+3} \cdot 1 \cdot \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 1 \end{vmatrix} \\ &= 0 - (-2) + 2 = 4 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \begin{vmatrix} 2 & -1 & 6 \\ 5 & 0 & 1 \\ 3 & 2 & 4 \end{vmatrix} &= 2 \cdot \begin{vmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 4 \end{vmatrix} - 5 \cdot \begin{vmatrix} -1 & 6 \\ 2 & 4 \end{vmatrix} + 3 \cdot \begin{vmatrix} -1 & 6 \\ 0 & 1 \end{vmatrix} \\ &= 2 \cdot (-2) - 5 \cdot (-16) + 3 \cdot (-1) = 73 \end{aligned}$$

### 5.3 行列式の展開

上で 3 次の行列で説明した事は、一般の  $n$  次の正方行列の行列式にも当てはまる。

$n$  次の正方行列  $A$  の行列式  $|A|$  の定義は余因子を使って

$$|A| = a_{11}|\overline{A_{11}}| - a_{21}|\overline{A_{21}}| + \dots + (-1)^{n+1}a_{n1}|\overline{A_{n1}}|$$

と定義したが、これを  $|A|$  を第 1 列で展開した式と言う。第 1 列の代わりに第  $j$  列で展開する事もできる。

$$|A| = (-1)^{1+j}a_{1j}|\overline{A_{1j}}| + (-1)^{2+j}a_{2j}|\overline{A_{2j}}| + \dots + (-1)^{n+j}a_{nj}|\overline{A_{nj}}|$$

ただし、 $\overline{A_{ij}}$  は、元の行列  $A$  から第  $i$  行と第  $j$  列を除いた行列。

列でなく行で展開する事もできる。第  $i$  行で展開すると

$$|A| = (-1)^{i+1}a_{i1}|\overline{A_{i1}}| + (-1)^{i+2}a_{i2}|\overline{A_{i2}}| + \dots + (-1)^{i+n}a_{in}|\overline{A_{in}}|$$

が成り立つ。これは帰納法で証明できるが、省略する。あとに述べる行列式の性質を使うと分かりやすい。

練習 5.1 次の行列式を計算せよ

$$1. \begin{vmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{vmatrix}$$

$$2. \begin{vmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 5 & 2 \\ 7 & 1 & 6 \end{vmatrix}$$

$$3. \begin{vmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 2 & -1 & 1 \\ 1 & -2 & 1 \end{vmatrix}$$

$$4. \begin{vmatrix} 1 & 2 & 3 \\ -1 & -2 & -3 \\ 2 & 4 & 6 \end{vmatrix}$$